

## 声に出すとわかる平家物語

祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響きあり。

沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらはす。

おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。

たけき者もつひには滅びぬ、ひとえに風の前の塵に同じ。

「難しい」「漢字が多い」「四字熟語が多い」「意味が分からない」「暗そう」……そうなんです。それらすべて平家物語の特徴です。

さらに、次のように感じた人はいないかな。「声に出すとお経のようだ」「確かに暗そうだけど、リズムがあるように読みやすい」こんな感想がもてれば、鎌倉時代が実感できたことになりますよ。

確かに、難しい漢字や四字熟語があるから、音読しにくいかもしれないね。でも、声に出さないとわからないことだってあるから、だまされたと思って何度も声に出して読んでごらん。「なるほど」と思えてくるよ。信じられないかもしれないけど、竹取物語の書き出しよりも暗記しやすいはず。その理由があるよ。それについては、この後説明するね。

祇園精舎の鐘の聲、諸行無常の響きあり。

沙羅双樹の花の色、盛者必衰の理をあらはす。

おごれる人も久しからず、ただ春の夜の夢のごとし。

たけき者もつひには滅びぬ、ひとえに風の前の塵に同じ。

色を付けしました。これで何か気づきませんか。適当に色づけしたわけではありませんよ。二行ずつペアになっているでしょ。これはあるものの影響です。それについては、授業で勉強してください。

ペアになっっているからリズムが生まれ、頭に残りやすい。つまり暗記しやすいということです。皆さんの家族の中にも、平家物語の書き出しを覚えていてという人は結構いると思いますよ。尋ねてみてください。

漢字や漢語（音読みの漢字が組み

合わさった熟語）が多いことや、

「無常」「必衰」「久しからず」

「滅ぶ」などは仏教の影響だね。

詳しくは二日の分の文章を参照。

（五月五日の分）

